

同心

DOHSIN

1994

3号

クリニックだより

発行者

医療法人・いしぐろクリニック
金沢市窪4丁目515番地
TEL (0762) 43-2500

編集責任者

石黒 修三

同心の由来

病いを持つひと、癒すひと。同じ心でいたいものとの願いからつけました。

失敗は成功の母？

院長 石黒 修三

早いものです。クリニックが誕生して3年目です。あつという間の2年間に、あつという間もなく肥りました。その上に、血圧は上がる。血糖が上がる。まさしく医者の不養生です。

ま、原因はストレスでしょうね。ストレスのために増えるある種のホルモンが、糖の代謝に不可欠なインシュリンの働きを悪くします。糖の不完全燃焼を起こして血糖値が上がります。インシュリンのせいでは脂肪がでやすくなり肥満が起きます。肥満が起これば血圧が上がります。書いたところどこからか、「ビールは？」という声が聞こえてきました。ええ、そうでした。

慣れない仕事の毎日でしたから日茶苦茶に疲れるのです。仕事が終わると、好きでもないのについてビールに手が延びてしまいました。アルコールは1グラム7カロリー。



簡単に肥ります。

何がストレスになったか、ま、一番の苦勞はクリニックのひとつづくりです。最初は、その苦勞をあえて楽しもうと思ったのですが、

甘い甘い。大失敗でした。好き放題を自由と勘違いしているひとが多い時代。ひどいひといました。ですが、なんののかんといったって、失敗の責任は私にあるのです。スタッフがくるくる変わる。患者さんには申し訳のないことです。

あるとき思いました。スタッフを教育する時間がない。能力がないというのなら、ひとに助けてもらえばよいと。6月末から田中事務長と出口主任にきてもらいました。辞めたいひとは辞めてもらうことにしました。これで私も、一度に肩の荷が軽くなったようです。まずは、「痩せなければ」と自分の体に注意が向き、これを実行に移されたのですからホンモノでしょう。間違いないダイエットと毎朝40分以上のジョギングで、2カ月の間に体重を7キロ落としました。おかげで、ますます元気が出てきたようです。

「同心会」発足総会及びパーティー開催

去る9月10日(日)17時より、金沢ニューグランドホテルにて、「同心会」発足総会及びパーティーを行いました。

この会は、先に皆様にはガキで入会のご案内をしました会で、会員及び家族の健康増進をめざし、会員相互の親睦及びいしぐろクリニックとの交流を図る事を目的としたものです。

当日は170名もの会員の方々に集まって頂き、たいへんな盛況ぶりでした。まず17時からの総会で高桑会長をはじめとした、役員の出選と会の規約の決定をし、17時



30分より18時30分まで院長による「高血圧」の講演、その後パーティーを行いました。パーティーでは、当クリニック職員が考えた「北国の春」の替え歌「いしぐろクリニックの歌」などで大変盛り上がり、出席者の皆さんはたいへん楽しんで頂けたようでした。

これから「同心会」を院長、また役員の方々と一緒にさらに良いものに、もっと多くの方々に参加して頂ける、そんな会にして行きたいと思えます。

(事務長 田中 行実 記)

同心会会長就任の

ご挨拶



同心会会長
高桑 健治

昭和六十二年十二月十四日赤穂浪士討ち入りの日、奇しくも私は県立中央病院に入院いたしました。数日後、石黒先生の執刀のもと、頭部の手術を受けました。病名は硬膜下血腫とのことでした。それ

は外傷からのもので比較的軽く、心配は余り要らないと先生から言っていたが、安心いたしました。

以前より還暦の厄除けは、数え年六十歳の暮れに氏神様へお参りすることと、聞いておりましたが、その年で私は満五十九歳、数えの六十歳でございました。それで、手術の前日に神主様からお守りをいただき、枕の下に入れておきました。お蔭様で翌年の三月に無事退院できました。その後、頭髮も伸び、まさに十千十二支の一巡、新しく生まれ変わりました喜びで、唯々感謝以外ありません。石黒先生始め、看護くださいました方々の姿が神様のように私の目に映りましたこと、昨日のように思い出されます。

爾来七年になります。月一度の診察を続けてくださり、開業後はより親しくお世話になっております。

ワッシー先生のお人柄については、申し上げるまでもなく皆様よくご存じの通りでございます。そのお人柄のもと、発足いたしました患者の会(同心会)の会長を仰せつかり、ワッシー先生にご恩返しができますれば、私にとりまして光栄

脳の血管は大丈夫？

「夜寝る前にコップ一杯の水を飲んでください」という言葉。クリニックでは何度も、耳にタコができるほどに聞かされたね。少しは効果があったのでしようか。この夏、クリニックに通院中で脳梗塞の危険性があった患者さんたちも無事に過ごせました。MRIで脳の血管のキズの経過をみていますが、今のところは進行しているひとはごく希です。実は、猛暑で脱水になりやすかった頃に、脳梗塞で入院する患者が急増したというのです。夜間の脱水は夏だけではありません。これからも引き続きご注意ください。さて、私がこの頃特に

気にしている病気は、「くも膜下出血」です。冬の寒いときに起きやすいと思われていま



す。が、私の統計では、この季節の変わり目に多いのです。柿の実が色づいたあとで、血

圧は不安定になります。血圧が上がったり下がったりすることが、脳の血管にできた動脈瘤（コブ）を破れやすくするのかもしれない。

この病気は決して多いものではないですが、ひどい出血を起こしてからでは手遅れです。ちなみに、くも膜下出血の死亡率は約50%。いきなりガツンと頭が痛くなったら専門的な検査が必要です。それは、これまで経験したことのない頭痛です。突然始まる痛みです。冷や汗が出るようなら間違いないでしょう。くれぐれも、風邪などと簡単に考えないように。また、家族がくも膜下出血になったひとや心配なひとは、頭痛がなくても脳血管の精密検査を受けてください。（院長）

の至りと、微力ながらお引受けした次第でございます。

「同心」の由来は、「病を持つ人、癒す人。同じ心でいたいもの」とのこと。先生の暖かい心に感謝申し上げます。どうぞ皆様方の積極的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「同心会」役員名簿

会長	高桑健治
副会長	谷口恵範 高橋 強 柄田幸子
事務局長	田中行実
顧問	田村勇作 徳木利政
監事	綿野 定
会計	大橋美恵子
幹事	大島信一 福田芳美 玉田 進 金田万由美 関谷星子 辻原美智子 中橋美和子 石浦春彦 西川千晶 槻 和香 （順不同）

会員から「同心会」への寄附

三〇万円	高桑 健治
一万円	八田八重子
一万円	塩川 文子

患者さんからの

お便り紹介

「霊峰白山に登って」

伊藤 正春

◆発病、石黒先生との出会い

昭和52年12月17日、脳血栓にて県立中央病院に入院、12月23日石黒先生の執刀にて手術を受け、一命をとりとめる。

以後、必死にリハビリを続けましたが、左片麻痺は治りませんでした。大変なショックでしたが、

左片麻痺を前提とした行き方を考えようと思い、すべてプラス志向で生きて行こうと決心しました。



◆白山登山思い立ち

以前から日本の三名山の白山の頂上を極め、ご来光を拝みたいと思っていました。地図を買って登山道や登山装備、高山植物等を調べ、一番登りやすい別当出合からの砂防新道に決めました。

◆いよいよ登山

登山ルートも実行日も決めましたが、独りでは心細いので息子と二人で登ることにしました。午前5時50分に登山開始、途中高い崖や急勾配のみちがありました。息子の力を借りてなんとか登り、

■「同心会」入会のおすすめ

この号でお知らせした「同心会」に入会したい方を随時募集しております。パーティーや小旅行、講演会等企画しております。くわしくは当クリニック受付までどうぞ。

■「同心会」11月の行事

11月12日(土)午後6:00より金沢市中央公民館にて「骨粗しょう症について」と題して当院長による講演会を開催致します。

■「骨粗鬆症」検査のおすすめ

当クリニックでは今年初めに「骨密度測定装置」を導入致しました。この機械は足や手など一部を測定するものでなく、全身を測定する密度の高い、正確なものです。骨粗鬆症が心配な方は、一度測定してみてもいかがですか？

■当クリニックからのお知らせ

- ①毎月第一水曜日、院長による相談日を行っております。必ず予約をお願い致します。
- ②皆様を出来るだけお待たせしないために、次の診察日の予約を承っております。帰りの際は受付にて、ご予約をお願い致します。
- ③木曜日、土曜日の診察時間は午前のみとなっております。お間違えのないよう、お願い致します。

編集後記

やっとの思いで下山しました。しかし残念なのは頂上を極められなかった事で、必ず再挑戦しようと思心しました。

ようやく「同心会」が誕生しました。交流が深まるように、この機関誌にもふるってご投稿を。